令和5年12月15日発行　発行所　下神明天祖神社社務所　宮司　福岡三朗　品川区二葉1丁目3－24　TEL 03-3782-7349

令和六年

社報

天祖神社

発輿祭

未来に向けて

宮司　福岡三朗

社名制定三百八十年にあたる令和五年の例大祭は、本祭特別行事も含めて盛大に執り行うことが出来ました。是ひとえに天地の神々の御神徳と氏子衆・崇敬者諸兄の心意気と働きのお陰と感謝しております。九月の天気は不安定で十年前の本祭は神幸行列が中止、五年前の稚児行列も不本意な形での斎行となりました。更に本年に至ってはコロナの影響も収まらず、準備の為の会議も中々進める事が難しい状況が続きました。しかし、五月頃より感染症の扱いも改まり、皆様の祭を賑やかに行いたいという心の高ぶりと努力が御祭神にも通じたのではないかと感じています。　そもそも何故に祭を盛大に行うか、自分たちの楽しみもあるでしょうが、大きな理由として昔から積み重ねてこられた伝統を守りたいとの思いがございます。当社の式年祭は昭和の世から始まり、常に前回や前々回を凌駕する形を目標に行い、次に繋ぐことで先人達の恩に報いてきました。この様に伝統行事というのは先祖が受け継いだものを後裔が残してまいります。行事が大きいほど引継ぎも難しくなります。実際コロナ禍にて御神輿が出せなかった年が続いたことによる苦労も本年はあったと聞いています。

今回の神幸祭は初めて全町会を巡り、稚児行列は過去最多数のご参加を頂き、三百五十年祭から携わってきた私から見ても全てが最大規模で、非常な暑さにも関わらず皆が元気で笑って終えることが出来ました。十年後、二十年後の氏子達は三百八十年祭の充実した映像や写真などの記録と関わった我々の言い伝えを目標に奮闘することとなるので、苦労は多かったが良い課題を残せたのではないかと感じています。そして大変な事さえも楽しんで祭りを盛り上げて下さった皆様に感謝を申し上げます。これからも先祖を想い、自身が楽しみ、更に大きな楽しみを子孫に残す事を心がけて力を協えて神社行事を繋いで参りましょう。

お天道様が見ている

最近ではあまり耳にしなくなりましたが、昔は親や近所の大人が子供を叱るときに「お天道様が見てるぞ」という言葉をよくきかされました。お天道様は神道的には伊勢の神宮にお祀りされている天照大御神という事になりますが、この言葉の意味としては「天上から下界を見下ろしている神様仏様」ということではないでしょうか。たとえ人が見ていないとしても、神様仏様はしっかりとあなたの所業をご覧になっていますよ、ということなのです。誰も見ていないと思っていてもちゃんと見ている存在があるのだから、悪いことや後ろ暗いことはしていませんよ、という先人の教えです。

神仏はそれぞれの人の心の中にも宿っています。心の中の神仏はいつもあなたを見ています。誰も見ていなくても、自分が悪いことをしているのは、自分自身が一番よく分かっている。心の中の神仏はいつもあなたを見ています。「お天道様が見ている」と心したいです。

厄年

今は誕生日が来ると年を重ねますが、昔はお正月に年神さまをお迎えして神様の御魂を頂くのが一年の始まりで、その時に年を重ねると考えられていました。そのようなわけで厄祓いの御祈願は今でも旧暦の正月までに行うのが一般的です。

厄年の頃は人生の転換期といわれ、最も健康面に気を付けねばならない時期です。お祓いを受け、良い節目となるよう祈願し、心身共に晴れやかに毎日を過ごしましょう。

令和六年の厄年表（数え年）

	前厄	本厄	後厄
男の厄年	24歳 へび 平成13年生	25歳 たつ 平成12年生	26歳 うさぎ 平成11年生
	41歳 ねずみ 昭和59年生	42歳 いのしし 昭和58年生	43歳 いぬ 昭和57年生
	60歳 へび 昭和40年生	61歳 たつ 昭和39年生	62歳 うさぎ 昭和38年生
女の厄年	18歳 いのしし 平成19年生	19歳 いぬ 平成18年生	20歳 とり 平成17年生
	32歳 とり 平成5年生	33歳 さる 平成4年生	34歳 ひつじ 平成3年生
	36歳 へび 昭和64年生・平成元年生	37歳 たつ 昭和63年生	38歳 うさぎ 昭和62年生
	60歳 へび 昭和40年生	61歳 たつ 昭和39年生	62歳 うさぎ 昭和38年生

※数え年とは、実年齢に誕生日前は二歳、誕生日後は一歳を加えた数です。

月次祭へのお誘い

毎月（一月を除く）一日午前七時より氏子・崇敬者の安寧を願い、月次祭を斎行しています。月の始まりにお祓いを受け、健康で明るい生活を送りましょう。どなたでも昇殿頂けますのでお誘い合わせてお参り下さい。事前のご連絡は不要です。参列ご希望の方は直接神社へお越しください。

天祖神社の御祭神・御由緒

天照大神（神明さま）
応神天皇（八幡さま）
天児屋根命（春日さま）

江戸中期に編纂された幕府官撰地誌「新編武蔵風土記稿」には上下の神明社勧請の年歴は不明とあるが、御神木であるカヤは樹齢六〇〇年を超えているとの見立てもあり、社も室町時代には在ったと想される。同風土記稿中の「正保年中改定図」に下神明の元である下蛇窪の記が初めて見られることから正保元年（一六四四）を上下の村の成立元年として昭和五十八年に両社で三四〇年祭が斎行され、以降十年毎に式年大祭が行われている。当社が現御祭神を迎え神明社として鎮座したのは、江戸初期に広く流布していた伊勢信仰や伊勢・八幡・春日の三神を祀る三社託宣信仰に依るものである。

現在では区内最大の御神木と大狛犬や最長の参道などを有し、神社を中心に雅楽の稽古が盛んに行われるなど伝統文化継承にも力を入れている。

由緒追記

平成三十年、氏子有志歴史研究会が村や当社の興りについての検証経過を公表。それに依ると十五世紀に藤原秀郷の末裔を頭とする一族が常陸国より遣わされて此の地を開墾。村の東高台に先祖神・天児屋根命を祀る社を建てたとの伝えが子孫の家に残る等、様々な事柄が判明。依って当社の元は天児屋根命を祭神とする春日社で江戸初期に天照大神と応神天皇を迎え三柱を祭神とする神明社となったと考えられる。

現在も品川歴史館主導で氏子内旧家に伝わる古文書の調査が進められている。

節分祭

鬼は外、福は内

令和六年の節分祭は二月三日㈯午後四時より斎行の予定です。詳細は一月中旬にポスターや神社サイト等でお知らせします。

辰年の方は勿論、大勢で声高らかに「邪鬼（ヲニ）は外」「福は内」と豆を撒き、未だ世間に漂う邪鬼を追い祓い、福富を迎えましょう。

下神明天祖神社

〒142-0043　東京都品川区二葉1丁目3－24

各種ご祈願・行事参加
地鎮祭・神葬祭の
お申し込み・詳細のお問合せは
天祖神社社務所まで
電話：03-3782-7349

ホームページからのお問合せも可
https://shimo-shinmei.jp/

※年末年始のメールでのお問合せは社務の都合上お返事が遅くなる場合があります。
お急ぎの方は必ず社頭またはお電話にてお問合せください。

氏子区域

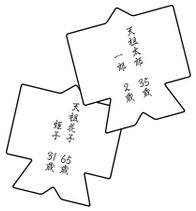
- 二葉一丁目・二丁目・三丁目17～21
- 戸越五丁目（1、2、14、15を除く）
- 豊町三丁目・豊町四丁目（1を除く）
- 大井二丁目1の一部

形代と御神札

大祓とは、罪穢れを祓い清める神事です。六月の大祓を夏越の大祓、十二月の大祓を年越大祓といいます。神道では人はもともと清く綺麗な心を持っていると考えます。しかし、生活している間に曇り、知らず知らずのうちに穢れに触れ罪を犯し、清い心から遠くなっていくため、祓いによって本来の綺麗な心にかえすのです。

大祓神事では、人の罪穢れを移した紙の人形（形代といいます）を身代わりに清めます。形代で身をなでて息を吹きかけるのは身体と心の穢れを追い出すことを意味しています。全ての穢れを形代に移し、清々しい気持で新しい年を迎えましょう。

形代（かたしろ）



形代は二枚入っています。
一枚を男性、一枚を女性に分けるなどして
- ご家族全員のお名前、年齢を記します。
- 息を三度吹きかけ、形代で体をなでて心身の罪穢れを移します。

形代が手元にない方はお知らせ下さい。神社よりお届け致します。

御神札（おふだ）

年の暮れには大掃除をして新しい年を迎える準備をしますが、同様に神棚も綺麗にして新しい御神札をおまつりしましょう。

天祖神社では、毎年年末に氏子の方々へ新年の御神札を頒布しております。年内にお受けになり、清新なお心で新春をお迎えください。古い御神札は神社でお焚き上げいたします。一年間お守り頂いたことに感謝申し上げてから神社へお納め下さい。

お焚き上げについて

お焚き上げできるものは御神札、お守り、神社で授与しているものです。
- お人形・ぬいぐるみはお預かりできません。
- ダルマはお受けになったところへお納めください。
- 金属、ガラス、陶器などの燃えないもの、またビニールなど燃やすと有害なものは外してお持ちください。
- 延焼の危険がありますので、紙（特に新聞紙）には包まずにお持ちください。

伝統行事を末永く続けるためにも、ご協力をお願いいたします。
ご不明な点がございましたら、社務所までお問い合わせください。

年越しの納めの祓する人は　延寿の春を迎えるというなり

年越大祓神事

どなたでもご参列頂けます。

12月30日 午後7時

大祓神事は12月30日午後7時より斎行いたします。形代は神事の始まる前までに初穂料をそえて神社にお持ちください。
天祖神社では古式にのっとりお祓いをし、形代を犬吠埼沖に撒いて皆様の罪穢れを流します。

下神明天祖神社では毎年、12月30日に年越大祓神事を執り行っています。
1年間の悪事災難や、知らず知らずのうちに犯した罪穢れ（つみけがれ）を祓い清め、
新年の幸福と繁栄を祈願する神事です。参列ご希望の方は当日境内にて受付いたします。

形代をお持ちください。

年越大祓神事

毎年行われていた犬吠埼での形代流し神事

新しい年のはじまりに

昇殿参拝

天祖神社では一年の始まりに「新年祈願祭」（昇殿参拝）にて、家内安全、商売繁盛、社運隆昌、厄除他諸祈願を承っております。
皆様が清新なるお心で、新春を迎えられますことをご祈念申し上げます。

しんねんは
てんそじんじゃへ
はつもうで

仕事始め祈願（会社団体祈願）

商売繁盛・社運隆昌・事業発展
社内安全・交通安全・開運招福・他
式の終わりに代表者発声により神酒拝戴を行います。

個人祈願

家内安全・商売繁盛・初宮詣・厄年祓除・交通安全・車祓
身体健全・病気平癒・良縁成就・開運招福・合格祈願
安産祈願・心願成就・他

昇殿参拝のご予約は　天祖神社社務所まで
電話　03-3782-7349

事前のご予約（お電話可）が必要となります。
多少お時間が前後する場合がございますので予めご了承ください。

昇殿参拝された方には
木札に祈願・氏名（会社名）を記し、お渡ししております。

本祭特別事業　社殿修繕

御祭神に安心してお鎮まり頂く為に社殿全体の塗装と本殿を中心に屋根修理を行いました。
本殿屋根を横から見上げれば新しくなった千木（ちぎ）と鰹木（かつおぎ）を確認することが出来ますよ。

本祭特別行事　稚児行列

委員会での目標数を百名も超えた稚児を急遽十班に分けたことで滞りなく斎行することが出来ました。非常な暑さにも負けず稚児達が元気に行列を為して参拝する姿、その稚児達を先導する巫女や雅楽の演奏も地元の中高生が担ってくれました。非常に喜ばしいことで神さまも感服のこととお察し申し上げます。

本祭特別行事　神幸祭

氏子内を横に走る線路の存在が大きい為に難しいとされてきた七町会神輿連合渡御ですが、十年前の三百七十年祭で初めて行うことができ、更に今回は五十数名が役に扮して行列を為し完全な形での神幸祭となりました。
本番直前のお願いにも関わらず快く着替場所をご提供下さった立正佼成会品川教会様には殊に御礼申し上げます。

本祭特別行事　請戸神楽奉納

津波で消えてしまった請戸の町は災害危険区域に指定され復興への道は今なお閉ざされたままで、鎮守の苔野神社に伝えられてきた御神楽の継承には困難な状況が続いています。十年前五年前に続き今回の本祭でも各地より東京に集合し、奉納頂いた御神楽を通じて御祭神に良い方向へとお導き頂く事を祈念致しました。